

ねぎ軟腐病による被害の拡大が懸念されます

～防除対策を徹底し、被害を最小限に抑えましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月14～16日の大雨と7月22日の梅雨明け以降の高温により、夏ねぎを中心に全県で軟腐病（図－1）の発生が多く見られている。

全県のねぎ軟腐病の発生面積は、夏ねぎ・秋冬ねぎともに年々増加傾向で（図－2）、特に大雨被害のあった2022年の発生面積が多かったため、本年のほ場内の菌密度は高いと推定される。

7月27日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、今後も発病に好適な条件が続くと予想され、軟腐病などの細菌病による腐敗の拡大が懸念される。このため、本病の防除対策を徹底する必要がある。

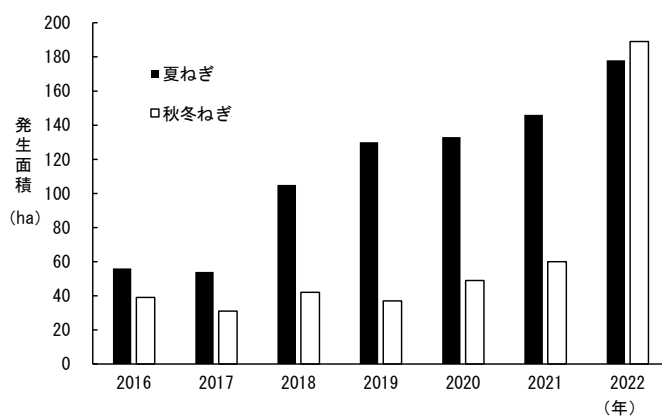
2. 防除対策

- 1) 通路と明渠をつなぎ、表面排水を図るなどの排水対策を徹底する。
- 2) かん水を行う場合は朝の涼しい時間帯とし、短時間のかん水にとどめる。また、スプリンクラーによる頭上かん水は本病害を助長するため、特に注意する。
- 3) 適正施肥に努め、過剰な追肥を行わない。また、大雨の影響により根傷みが発生している場合は、生育の回復を待ってから追肥を行う。
- 4) 高温時の土寄せは発病を助長するので控える。ただし、収穫が近いなどやむを得ず土寄せを行う場合は、ねぎの分岐部に土がかからないようにする。
- 5) 発病株を確認した場合は、発病株とそれに隣接する株を抜き取り、ほ場外で処分する。また、夏季に新葉の黄化や黄色の斑点などが見られる株（図－3）は腐敗する可能性が高いため、抜き取り処分する。
- 6) 収穫遅れは本病害の発生を助長するので、適期の収穫に努める。特に、夏ねぎにおいて播種粒数が少ない（株間が広い）場合は注意する。
- 7) 発病前からの薬剤防除に努める（表－4）。また、同一RACコードの薬剤は連用しない。

3. 資料

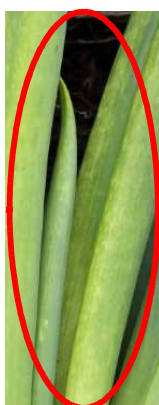


図－1 軟腐病が発生した株



図－２ ねぎ軟腐病の発生面積*の推移（全県）

※植物防疫年報より作成



図－３ 夏季における新葉の黄化や黄色の斑点

表－１ ねぎ軟腐病の防除薬剤一覧

RACコード	農薬名	希釈倍数又は使用量	使用時期	使用回数
31	スターナ水和剤	2,000倍	収－7日	3回以内
M01	ヨネポン水和剤	500倍	収－7日	4回以内
31・M01	ナレート水和剤	1,000倍	収－14日	3回以内
M01	Zボルドー※ ¹	500倍	—	—
M01	コサイド3000※ ²	2,000倍	—	—

※1:作物名「野菜類(キャベツを除く)」での登録 ※2:作物名「野菜」での登録

注意事項

ア、収穫前日数に注意する。

イ、農薬は早朝または夕方の涼しい時間帯に散布するなどし、薬害発生のリスクを低減する。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>